

令和3年度第1回筑紫野市総合教育会議

○日 時

令和3年11月24日（水）午後1時52分から午後3時22分

○場 所

筑紫野市役所 1階多目的ホール

○出席委員（7名）

市長	藤田 陽三	教育長	上野 二三夫
教育委員	潮見 眞千子	教育委員	田代 邦夫
教育委員	牛川 由美	教育委員	久原 寛

○欠席委員（0名）

○出席説明員（8名）

教育部長	長澤 龍彦	健康福祉部長	森 えつ子
教育政策課長	吉開 和子	学校教育課長	嵯峨 栄二
学校給食課長	倉掛 伸夫	生涯学習課長	檜木 理恵
文化・スポーツ振興課長	益 永 晃	文化財課長	小鹿野 亮

○議事日程

1. 開会のあいさつ
 - ・市長あいさつ
2. 報告「ICT教育」について
 - ①本市の現状について
 - ・教育委員会（長澤龍彦教育部長）
 - ②小中学校の活用状況紹介
 - ・二日市小学校（有川佐智子主幹教諭）
 - ・天拝中学校（古賀英利主幹教諭）
3. 講話
講師：福岡教育事務所 主幹指導主事 高野誠一様
テーマ：「ICTを活用した一人ひとりを大切にする教育並びに豊かな心を育てる教育」
4. 閉会のことば

会議録

○教育政策課長：ただいまより、第10回令和3年度第1回筑紫野市総合教育会議を開会いたします。皆様、御起立ください。

気をつけ。礼。直れ。御着席ください。

本日の進行を務めさせていただきます教育政策課長の吉開和子でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに本会議の主催者であります藤田陽三筑紫野市長が開会の御挨拶を申し上げます。

○市長：皆さん、こんにちは。御紹介をいただきました筑紫野市長の藤田陽三でございます。開会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

本日は、令和3年度第1回目の筑紫野市総合教育会議を開催いたしましたところ、教育委員の皆様、そして市内小中学校の校長先生、また、先生方におかれましては大変御多用な中に御出席をいただき、誠にありがとうございます。また、筑紫野市議会からは、文教福祉委員会の山本委員長をはじめ、議員の皆さん方にも多数御出席いただいているところでございます。誠にありがとうございます。本市の教育行政に対して多大なる御理解と御尽力をいただいておりますことにも、重ねて心から感謝を申し上げます。

さて、昨今の学校を取り巻く環境は刻々と変化を遂げております。特に本年の4月からタブレットを使用した授業が始まりました。現在の教育における最大の問題であると思っておりますが、その活用は、教育の在り方に大きな影響を与えているところでもあろうと思っております。効果的また効率的な学習はもとより、筑紫野市がこれまで大事にしてきました温かさ、また豊かな教育をモットーとする3原則「知育・徳育・体育」の教育に、どのように誇りを持てる郷土として愛する子どもたちの育成に結びつけていくか、このことは私も非常に高い関心を持っておるところでございます。

本日はそうしたICT教育の現状について、二日市小学校は有川先生、また、天拝中学校は古賀先生から実践報告をいただけると聞いているところです。

また、福岡教育事務所の高野先生からは実践報告を踏まえた御講話をいただきます。先生は大野城市教育委員会で指導室長を務めた経歴をお持ちですが、学校また行政それぞれの御経験からのアドバイスをいただけるものと大変楽しみにしています。

新たな局面を迎え、市長部局、教育委員会及び学校との連携は今後ますます重要であります。本日の総合教育会議におきまして、ここに御参加の皆さんと改めて課題と目標を共有し、筑紫野市の子どものため、しっかりと手を携えてまいりたいと考えているところです。

終わりに、本日の会議が皆さんにとりまして実りの多い会議になることを祈念しまして、私の挨拶といたします。

○教育政策課長：ありがとうございました。

それではこれより、小中学校のICT教育をテーマにお手元の次第に沿って進めさせていただきたいと存じます。プロジェクターの準備をいたしますので、しばらくお待ちください。

(発表準備)

○教育政策課長：お待たせいたしました。次第の2番、報告に入ります。

まず、初めにICT教育の本市の現状について、長澤龍彦教育部長より報告をさせていただきます。

長澤部長、お願いいたします。

○長澤教育部長：失礼いたします。皆さん、こんにちは。教育部長の長澤龍彦です。

私からはICT教育の現状について、四つの要点を項目にまとめましたので、前方のパワーポイントを使って御報告、御説明をさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。

まず初めに、一つ目の要点、ICT教育の必要性について報告いたします。

現在、仕事の上でも家庭においても、現代社会のあらゆる場面でICTの活用が当たり前のようになり、子どもたちがこれからの社会形成に参画していくためにはICTに係る資質、能力が強く求められ、この資質、能力を一層確実に育成していくことが必要となってきました。また、ICT教育は多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、一人一人の状況に応じた学びに寄与するものでなくてはならず、子どもたちにその可能性を広げるものであります。このような現状を踏まえ、国、文部科学省は児童生徒1人1台のタブレット端末及び学校の通信ネットワークなどを一体的に整備するよう提唱し、今日に至っております。

次に、二つ目の要点、本市のICT機器等の整備状況について報告いたします。現在、本市の児童生徒のタブレット9,100台をはじめ、学習支援ソフト、充電保管庫、デジタルテレビ、ネットワーク環境などを各学校に配備させていただきました。これらの機器等の整備は、総合教育会議の主催者であります藤田市長が令和2年4月に国が示したICT教育の加速による学びの保障の方針が決定された直後に英断され、令和2年度末に配備が完了したおかげで、令和3年度、本年4月からICT教育を一斉にスタートすることができました。また、令和元年度に各学校に配備しましたノートパソコンについても、現在はICT教育に必要な教師用パソコンとして有効に活用していただいております。このように、ICT機器等の整備を迅速にさせていただいたことに、教育委員会としてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

次に三つ目の要点、本市のこれまでの取組について報告いたします。

本市では、子どもたちがICT機器を適切・安全に使いこなすことができるよう、情報活用能力の育成とともに、情報モラル教育が一番重要・大切であると考えております。そのため、教育委員会としましては、児童生徒が学校で安心して使用するために本年4月にタブレット運用に係

る基本方針を作成し、それに基づき各学校へタブレット使用時の児童生徒に分かりやすいルールづくりやインターネット使用時のマナーについて指導をお願いしました。これを受け、各学校では児童生徒に対するルールづくりやマナーの指導等を進めていただき、何のために使うのか、使うときに気をつけること、個人情報の取扱いなどのルールを通して情報モラルや物を大事にする公共心、感謝の心の大切さを感じ、進んでルールを守ろうとする態度を育てていただいております。さらに、本年9月には、児童生徒の安心・安全を前提に積極的にICT機器を活用できるよう、様々なルールを全教職員で共有していただくために、情報モラル教育等ガイドラインを作成したところであります。

次に、四つ目の要点、学校での取組について報告いたします。

国の新学習指導要領では、全ての教科において、授業の中でタブレットに触れるよううたわれており、その具現化に向け、各小中学校で創意工夫しながら、また、学校間での連携による情報共有などにより積極的に活用していただいております。また、オンライン学習に向けての取組についても、児童生徒が学校や家庭で自分一人でもタブレットの使用ができるように、まずは慣れることから始め、コロナ禍や災害など、緊急時の長期の休校等を見据え、タブレットの持ち帰りによる自宅での実施テストを各学校で行っていただくなど、教育委員会と学校とが連携し、自宅でのオンライン学習に向けた準備を進めております。また、小中学校の活用状況等については、この後、小中学校を代表して二日市小学校と天拝中学校より具体的に御報告をいただきますので、私からの報告は割愛いたしますが、「一人一人の創意工夫に応じた学びを実現することができる」「一人一人の発達段階や各教科の特質に応じた有効的な活用ができる」などの感想を学校から伺っており、教育の可能性が広がっていくものと期待しております。

最後に、これまでに報告をいたしました四つの要点のまとめさせていただきます。

これまでの報告のとおり、ICT教育は、総合教育会議主催者である市長と教育委員会、学校とが連携をとり、一体・一丸となって取組むことが大変重要であります。本市の児童生徒がより効果的で有意義なICT教育の学びができるよう、情報モラル教育や活用事例に関する情報発信、教員研修を実施するなど、学校現場へのサポート、支援等を行いながら、今後もICT教育を推進してまいりますので、何とぞよろしく願いいたします。

以上で、私からのICT教育の現状についての報告を終わらせていただきます。御静聴ありがとうございました。

○教育政策課長：長澤部長、ありがとうございました。

続きまして、小中学校のタブレットの活用状況について、二日市小学校、有川佐智子主幹教諭、天拝中学校、古賀英利主幹教諭より御報告をいただきます。それでは、初めに児童の活用状況について二日市小学校、有川先生、お願いいたします。

○二日市小学校主幹教諭：二日市小学校の有川です。よろしく申し上げます。藤田市長様におかれましては、日頃から本市児童生徒のことを温かく見守りいただくとともに、学校教育の充実を力強く御支援いただいておりますことに心より感謝申し上げます。私からは、昨年、全児童に配付していただいたタブレットを中心に、その活用状況及び今後の見通しについて発表させていただきます。

まずは、2年生国語科の授業の様子を御覧ください。教材文「スイミー」を読んだ子どもたちが、その後、作者であるレオ・レオニの作品を読み広げ、読んだ作品について友達に紹介するプレゼンテーション作成のためにプログラミングしながら独創的に表現しているところです。

(動画視聴)

○二日市小学校主幹教諭：1人1台タブレットの配付で一人一人の学び方はこれまで以上に広がりが出てきました。そして私たち教職員一同、子どもたちのために教科の学びを深める授業の在り方を見直す機会になっています。そのため、子どもたちがタブレットを効果的に活用できるように、教職員も日々研さんを積んでいるところです。そして、教材開発も積極的に行っております。

これは、タブレットを使って学ぶことができる地球儀です。このような教材を子どもたちが活用しながら学んでいます。ここからは、実際に子どもたちがどのように活用しているのか紹介していきたいと思います。

全学年でよく行われている活用方法は、タブレットによる画像、動画撮影です。低学年でも簡単にできます。これは4年生の図画工作科の様子です。タブレットで描きたい風景を撮影し、それを見ながら作品を仕上げました。また、撮影した画像や動画は、記録・保存が可能です。以前の画像と比較することで成長の喜びを実感することも簡単になります。

これは5年生の総合的な学習の時間の様子です。米作りの体験活動の中で、稲が成長していく様子を写真に撮って記録していきました。動画の比較では、課題も具体的に捉えることができます。体育科などでは動画を撮影して自分の動きを確認することに活用しています。自分の体がどのように動いているのかを確認できることは身体意識を発達させるのに効果的です。そのほかにも、撮った写真に自分の気づきや考えを書き込んだり、分からないことを自分で調べたりして、考えを整理し、まとめる際に活用しています。

これは、3年生の算数科での一場面です。教師が画面を使って操作しながら説明することで、問題場面の意味を理解するのに有効です。

また、課題解決に向けて子どもたち自身が何を使って学習するかを選ぶ授業実践も行っています。先ほどの3年生の算数科の授業では、左側の2枚の写真のように、タブレットを使うのか、ノートを使うのか、子どもたち自身が自分に合った学び方を選んで学習しています。このような

授業は学習指導要領で言われている育てたい三つの資質・能力のうち「学びに向かう力」「人間性等の自らの学びを調整する姿」につながる実践になると考えています。

オンライン授業を想定した授業も行っています。全員同じ教室にはいますが、Teamsを活用して教師が指示を出したり、ロイロノートを活用して子どもたちの考えをまとめたりすることで、オンライン授業でも同じようにできるよう、取組を積み重ねているところです。

また、プログラミング教育についても、最初にお見せした子どもたちのように実践を行っています。プログラミングを使って自分の考えを表現したり、表現した自分の考えを友達に伝えたりしています。

さらに、コロナ禍では保護者を学校へ集めることが困難でした。そこで、Zoomによるオンライン参観を実施しました。7月と9月の2回行ったところです。保護者の方々に学校の教育活動へ理解・協力をいただくためには、開かれた学校づくりは欠かせません。オンライン参観は学級での子どもたちの様子を見ていただき、保護者に安心をもたらすよい機会になりました。9月の回では、特別支援学級の様子や、5年生は自然教室、6年生は修学旅行の活動の様子も配信しました。自然教室、修学旅行はそれぞれ画面でお示ししている4回ずつ配信し、保護者にも多く参加していただけたことで、子どもたちの生き生きとした活動の様子をリアルタイムで伝えることができました。

このように1人に1台のタブレット配付をしていただいたことで、子どもたちも学びの達成感を味わうことにつながっています。

これは、最初に動画をお見せした2年生の子どもたちの単元修了後の振り返り結果です。「プログラミングを使って自分の考えを表現することができましたか」という項目に対して「よくできた」「できた」と80%以上の子どもたちが回答しています。

これからも、子どもたちの学びを個別・最適なものにしていくために、積極的かつ効果的にタブレットを活用した授業実践を積み上げます。その中でオンライン授業を想定した授業づくりもさらに検討していきたいと思います。また、タブレットの活用が積極的に行われていく中で、子どもたちが安心・安全に使っていくことができるように、情報モラル教育の改善・実施を大切にしていきます。

本年度も、5年生を対象に規範意識を育てる授業を、外部講師を招いてオンラインで行ったところです。そして、タブレットを持ち帰ることを想定して、この情報モラル教育を子どもたちだけでなく、保護者へしっかり啓発していきたいと思います。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

○教育政策課長：子どもたちのタブレットの活用状況がよく分かりました。有川先生、御報告ありがとうございました。

続きまして、生徒の活用状況について、天拝中学校、古賀先生よりお願いいたします。

○天拝中学校主幹教諭：失礼いたします。ICT教育について、中学校を代表しまして筑紫野市立天拝中学校主幹教諭、古賀英利が報告させていただきます。

まず初めに、藤田市長様におかれましては、筑紫野市内の全小中学校にタブレットを整備・準備していただきまして誠にありがとうございました。そこで、タブレットが整備されて本校でできるようになったことを中心に説明させていただきます。授業で生徒の活動内容が充実してきたこと、コロナ禍で中止にせざるを得ない行事が実施できるようになったことについてです。

それでは、授業での生徒の活動内容が充実してきたことについて説明いたします。

活用状況の一つ目は、ICTを活用した指導方法に位置づけられている調査活動についてです。本校でも、タブレットを用い、いろいろな教科でインターネットを用いて、調べ学習に取り組んでいます。これまでは辞典や資料等を用いて調べ学習を行っていましたが、インターネットを用いて調べることで、情報量が多く、また詳しい内容も調べることができるようになったため、生徒たちはこれまでと異なり多くの知識を獲得することができています。

写真は1年生技術家庭科技術分野の「材料と加工の技術」において針葉樹、広葉樹の木々の特徴をまとめる学習時のものです。インターネットを活用して調べたことで、非常に多くの木の名前や特徴を調べることができ、生徒たちは世の中に自分の知らない木が山ほどあることに驚いていました。さらに、インターネット上の情報だけでは終わらせずに、より調べた情報を生かせる知識へと定着させていくためにも、現物の木材見本にも触れさせるなどの取組を行いながら、バーチャルと現実とをすり合わせることを意識した学習活動を位置づけています。

二つ目の活用状況は表現制作です。タブレットの動画撮影機能を活用し、課題解決学習に取り組んでいます。タブレットを用いることで視覚的に捉えることができ、それぞれ課題が明確になり、改善の過程が把握しやすくなりました。また、その場で撮影ができ、繰り返し見返すことが容易にできるため、生徒たちは改善できていることを実感し、様々な課題解決学習に意欲的に取り組んでいけると多くの声が聞かれました。

取組の実際として、国語の学習で文化発表会の出し物でもある博多にわかで活用しました。実際、自分たちがやっている姿をタブレットに録画し、それを見て、ペアで間や話し方など改善していかなければならない点を共通確認し、意見を出し合いながら繰り返し取り組んでいました。生徒たちはタブレットを活用しながら改善に取り組んだことで、本番ではすばらしい博多にわかを披露してくれました。また、多くのお褒めの言葉をもらった生徒たちは、タブレットの存在感を改めて感じていたようでした。

これからは、コロナ禍で中止にせざるを得ない行事を実施できたことについて報告いたします。特別活動、生徒会行事での生徒会選挙での活用についてです。これまでの立会演説会は全校生

徒が体育館に集合して行っていました。しかし、コロナ禍のために、写真のように密にならないように行くと、全校生徒が体育館に集まることができなくなりました。全校生徒が取り組むとても重要な行事の一つであり、生徒会役員の生徒は「どうにかできないものですか」と生徒会担当の教員に相談を持ちかけていました。今年度からタブレットが導入され、体育館にもWi-Fiが設置されたことで、これらを活用して取り組めるように工夫をしました。

これからの社会を担っていく生徒にとっては、選挙の体験はとても大切な一つと言えます。そこで、体育館に入れなかった3年生の各教室にリアルタイムで立候補者の演説の映像を送りました。モニター越しですが、立候補者の演説をZOOMUPで見聞きすることができ、この後の投票につなげることができました。

(動画視聴)

○天拝中学校主幹教諭：このように、今回、生徒会選挙を新たな方法で実施できたことはとてもよかったと思っています。また、社会科の公民の学習につなげることができ、とても有意義なものになりました。ICT機器を効果的に使うことでコロナ禍でできないことができるようになった一例です。

それでは、市長様に宛てて本校生徒からメッセージがございますので、どうぞ御覧ください。

(動画視聴)

○生徒：こんにちは。天拝中学校生徒会副会長の高島花月です。先日は、移動市長室、ありがとうございました。とても貴重な時間を過ごすことができ、良かったです。

本日は私から、天拝中学校の生徒を代表して筑紫野市内の全小中学校へのタブレットの導入について感謝の気持ちを伝えさせていただきます。現在、天拝中学校では調べ学習や意見交流の時間などにタブレットを利用しています。また、先日、市長様に披露させていただいた博多にわか授業時に自分たちの姿をタブレットで撮影し、それを見て課題を見つけ改善し、仕上げていくなど、今までできなかったことがタブレットを利用することによって実現し、よりよいものにつくり上げることができました。また、リアルタイムで通信ができるということで、全校生徒で集まれなくて困っていた活動ができるようになり、とてもうれしかったです。

これから、私たちはタブレットを丁寧に大切に、そして、もっともっと工夫をして感謝の気持ちを忘れずに使っていき、次の世代にもつなげていけるようにしていきたいです。

最後になりますが、タブレットの導入を進めてくださり、本当にありがとうございました。

○天拝中学校主幹教諭：最後に、タブレットが整備され、生徒たちの学習や活動の幅が広がり、生徒、教師ともにうれしく思っており、感謝いたしております。誠にありがとうございます。これから市内全中学校でさらに活用の充実を図り、また情報モラルやルールを守って安全に活用させていくことをお約束して、これで報告を終わらせていただきます。御静聴ありがとうございます。

した。(拍手)

○教育政策課長：生徒さんからも感謝の言葉をいただきました。今後も大切に使用していただけたらと思います。有川先生、古賀先生、御報告ありがとうございました。(拍手)

続きまして、次第の3番、福岡教育事務所の主幹指導主事高野誠様に御講話をいただきます。それでは、高野誠様の御紹介をさせていただきます。

高野様は春日市の小学校で教員をスタートされ、大野城市教育委員会教育指導室長、糸島市立南風小学校校長、福岡教育大学附属福岡小学校副校長などを歴任され、現在は福岡県教育庁福岡教育事務所で主幹指導主事兼教育指導室長兼教育相談室長兼社会教育室長をなさっております。本日は「ICTを活用した一人ひとりを大切にする教育並びに豊かな心を育てる教育」について御講話をいただきます。

それでは、高野先生、よろしくお願いたします。

○講師：改めまして、こんにちは。福岡県教育委員会福岡教育事務所の高野と申します。まず、市役所のとともきれいなホールでお話をさせていただく機会をいただきまして、誠にありがとうございます。

まず、自己紹介ですけれども、私は小学校の教員で、先ほど御説明があったとおり筑紫地区出身ですが、筑紫地区には計15年しかいません、よそで20年間ほど勤務をしているところです。専門は道徳教育や社会科、あるいはコミュニティスクール、ここ十数年は脳科学や認知心理学といった学問を勉強させていただいています。

まず、1人1台端末につきましては、教育委員会の御発表の中で市長様の御英断でというお話がありましたけれども、少し出遅れた市町村はまだ配備が終わっていません。前に示したグラフのとおり、96%が7月時点で終わったのですが、4%ほどの市町、具体的には全国の68の市町で端末の配信、整備が終わっていません。幸い福岡県内には一つもないのですけれども、本年度中どころか来年度になっても配備が終わらない市町も出てきています。御承知のとおり、昨今の半導体不足などで、パソコン、タブレット本体が不足しているということがあったり、あるいはWi-Fi環境の部品も不足しています。筑紫野市さんのようにスタートがよかったところは配備が終わっています。

また、7月末の同じ文科省の調査で「どのように使っていますか」と尋ねたところ、85%の小学校が全ての学年で使用しているということでした。中学校では91%が全学年で使用しているということですが、この端末の活用に関しては、保護者の皆様の関心が非常に高く、県の教育委員会は県内から様々な保護者の方からのお叱りのお電話等をいただくのですけれども、今年、半分ぐらいがICTの活用に関する御要望です。

中身は、「うちの子どもは、教室にタブレット端末はあるのだけれども、今週1回も使ってな

いそうです。それが2週間続いています」というふうに、お子さんに聞きながら、どれぐらい使ったのかということをチェックなさっている御家庭があったりするのです。また、オンライン授業に関して「うちでは全く行われていません」ということもあります。周りと比べられて、どうなのかというところに関心が高いようです。

まずは、なぜICTなのかということをしかりと共通理解しておくことが大事だろうと思っています。単純にタブレットを配付し、コロナ禍で休校になったときにオンライン授業を行うためではないということは御承知だろうと思いますが、世界的な動向も踏まえて、ぜひ御理解いただきたいと思います。

左上から書いていますのが、Society 5.0という、これからの社会に向けた内閣府の提唱です。現在が4.0で情報社会といわれるものですが、今後、ますますIoT、AIが進んでいくことをお示ししています。IoTというのは、例えば外出先から自分の家のエアコンのスイッチを入れるとか、家に帰ったらお風呂のお湯が満タンになっているとか、そんなことが外からもインターネットを通じてできるようになるのがIoTです。

AIというのは、例えば買物をする——化粧品を買おうというときに、今まではデパートに行って、人とお話をしながら実際にお化粧品してもらったりしています。それが、顔写真を送れば、あなたに合うのはこれではないかというように組合せを提案してくれる人工知能がAIです。

今から日本が直面する大きな課題は人口減少社会に伴うもので、今年成人式を迎えた二十歳の子たちは124万人でした。昨年、2020年に生まれたお子さんは84万人です。この20年で32%の減少なのです。福岡県内で見ても二十七、八%減っています。減り方は全国平均よりも緩やかですけれども、今日も豊前市では学校が統合されることが報道されていました。四つの中学校が一つになる。田川市では、ここ数年で七つの中学校が二つに統合されます。そういった形で人口がじわじわと減少しています。だから、人がしなくてもいいことはコンピューターに任せようという発想です。それから、IT人材不足と書いていますが、こういったいろんなシステムを作っていくIT関係の、例えばシステムエンジニアなどの専門職の人たちが、あと10年もしないうちに79万人不足するという経済産業省のデータがあります。

日本にも人材はいます。個人的な話ですが、私の次男がコンピューター関係の仕事をしていて、専門はゲーム機で楽しむゲームのソフトをつくるプログラミングの仕事ですけれども、そういったプログラミングができる人、優秀なシステムエンジニアは日本にはいないのかと聞いてみたら、いるそうです。いるけれども日本にいない。日本で生まれて日本で勉強するのだけれども、就職先がアメリカとか中国だそうです。どうしてかということ、日本のIT人材はどちらかというと非常勤だったり、社会的な地位があまり高くないけど、アメリカに行くと年収2,000万円とか3,000万円で雇ってくれるのです。だからいいIT人材は世界にどんどん流れてしまってい

る現状があります。だから、先ほどの御発表にもあったようなプログラミングという言葉が出てきたりしています。

また、ICT後進国ということがあります。駄目駄目な話ばかりしていますけれども、今回のコロナ禍における定額給付金とか、市役所は非常に大変だったと思いますけれども、ドイツではスマホを使って申請すれば2日後に口座に振り込まれているのです。そういう社会になっている国があるのですが、日本はなかなか紙社会から抜け出せません。

それから、左下に書いてあるのは、PISA調査という、OECDが行っています国際的な学力調査です。3年に1回ありますけれども、この学力調査の形式が2015年あたりから変わり始めて、前回の2018年は全245問のテスト中173問はパソコンを使って答えるテストになっていて、パソコンの操作ができないと国際的な学力調査の問題にすらたどり着けません。使えることが前提で世界全体が進んでいるので、使えない国はこれから後進国になっていくということです。これが大きな世界的な流れです。

そのことを示すデータがあります。同じPISA調査の中で子どもたちへの質問調査が行われているのですが、これは高校1年生へのアンケートです。「家庭や学校での学習のためのICT機器の活用がほとんど進んでいない」、一番下が日本ですが、**「利用していない」**が8割程度、宿題でも8割程度、「全くICTを活用していない」もあって、これがOECD加盟国中最下位のデータです。最も進んでいない。もちろん、3年前ですのでGIGAスクールなんてありませんし、高校なので端末が配られているわけではありません。ところが、ゲームはどうかというと、ゲームでは世界1位です。ゲームでタブレット・スマホを使っている生徒の割合は世界トップです。

ゲームに対して否定的な見方をするわけではなくて、コロナ禍もあって、ゲームの事業価値はここ2年で1.5倍に伸びているのです。世界では今、20兆円産業と言われてはいますが、そのうちの2兆円を生み出しているのは日本です。ゲームの分野ではICTが進んでいる国です。

これからは、二日市小学校さん、それから天拝中学校さんの御発表を基に、ICTの特徴を生かした活用がなされていることを三つのキーワードで御説明したいと思います。

一つ目は「残す」というキーワードです。二日市小学校さんでは、稲の成長の様子あるいはマット運動の動画や写真等を残していますという御発表がありました。天拝中学校のほうでは、木材加工の過程だったり、博多にわかを動画で撮影しておられました。ICT活用の特徴の一つは残すことができることです。しかもクラウドを使うので、パソコンのように保存できる量に制限が少なく、無限という言い方はできませんけど、ものすごくたくさんの量をため込むことができます。

だから、残したものを使って、左下に書いている学習の様子を振り返って、もっといい作品に

しよう、もっといい運動にしようというふうに工夫することができますし、右側書いている「人の様子と比べることでよく考えるようになる」という効果がありますけれども、一番は、下に書いている「学びの履歴」です。今年小学校1年生で入学した子たちは中学校3年間まで9年間の自分の学んだことを紙以外でストックしておけるのです。

だから、中学校3年生の卒業式前に小学校1年生のときに書いた作文が読み返せます。こうやって自分は成長してきたなということを自覚できたりするので、もっともっと自分に自信を持ったり、もっと頑張っていこうと思ったりできるわけです。これがICT活用の大きな価値で、残しておくことができるということです。

二つ目には、オンラインの話がありましたけれども、つながる機能です。二日市小学校さんでは、ネットで調べものやオンライン授業、参観あるいは学校行事の配信を行っておられて、右側には天拝中学校の生徒会選挙のことを書いていますけれども、たくさんのことを調べるので、右下に書いているように、大量の情報から選んだり分析したりする力が育っていきます。

また、左下のほうに書いているように遠くの人とつながることができます。海外や東京にいる専門家へ、直接、学校に来てもらわずにインタビューなどで話を聞いたりできるわけです。学校同士、中学校と中学校をつないで生徒会同士のサミットができたり、遠くの人ともつながることができる。あるいは、いざというときに学びを止めないこともできる。

また、校務との関係では、保護者との連携も、先ほどの配信や掲示板という機能があるので、学級が使える掲示板を設定しておけば学級通信、お便りなどをそこから見るすることができます。わざわざ印刷しなくてもいいですし、いろんな働き方改革につながっていきます。

三つ目は、「個に応じる」ということで、二日市小学校では大型提示装置で説明されたり、学び方を選択されたりしていました。天拝中学校でも調べ学習を行っているということで、いろんなよさがありますけれども、自分で調べて表現をするということで、今、求められている「自己調整の学び」——難しいのですが、自分で見通しを立てて、自分で学習したことを振り返って改善していくということです。そういったことにつながりますし、自分の学習を客観的に見ないと選ぶことができないので、そういった選択ができる学習につながっていきます。

「個に応じる」という部分が今後ますます進んでいくと言われていて、すみません、ICTの世界なので横文字ばかり出てきますけれども、アダプティブ・ラーニングという言葉が使われています。これは子どもたちの習熟度・理解度によって問題の難易度などを変えていくことができるという仕組みです。実際にTOEICなど民間の英語検定試験にはこの方法が導入されています。ICTを使って答えていくことで、その子によって出てくる問題が変わっていくという仕組みです。

前に書いているのはAちゃん、Bちゃん、Cちゃんという3人の子どもがいますが、最初、

同じテストを受けて、その結果が80点、100点、50点だったとします。そうすると次に受けるテスト、あるいは学習する教材が変わっていきます。これは紙ではなくICTで行われているからできる仕組みです。次々にその子に応じた問題が現れて、それを解決していく。あるいはその子が解答できなかったことについては前の学年に戻って問題が出てくるという仕組みになっています。これがICTを使って学習することの大きな利点です。

例えて言うと、視力を検査するとき、輪の空いているところを答えます。あのときは一つ目に答えたら次に進んでいくでしょう。1.0が分からないのに1.5に行ったりしないです。それと同じです。最初に答えたら、その近辺の問題が出されて、答えられなければ大きい輪のほうに移っていくという仕組みです。TOEICなどのテストを受けた方が、自分は解けたのに点数があまりよくないというのはこれです。その人の学力というのを適正に診断するために、すごく似通ったレベルの問題を挙げて、大体答えられるようなテストに変化するのです。これは紙ではできない仕組みです。

こういった形に学習は変わっていきますけれども、先生は要らないのかということ、そうではありません。そういう狭い意味での学力を身につけるための仕組みとしてはものすごく活用できますけど、実際に面と向かって人の目を見ながら表情を見ながら話をしていくとか、意見が違う人同士が話し合っただけで折り合いをつけていくというのはタブレット上では不可能なので、そういった人と人とではないとできないような学習というものにしっかりと時間を使うために、それ以外の知識などは効率的にICTを使って身につけていくというように、しっかりと区別をしていくこと必要だと思います。

この図は資料にもお示しをしていますけれども、今、いろんな学校を回らせていただいて、タブレットを使った学習を拝見しています。その際に「今日使っている方法が学力のどこに効くのか」ということをよく質問されますので用意しているものですが、まだ作成途中です。真ん中に「主体的学ぶ態度、知識・技能、思考力・判断力・表現力」という今言われている学力を置いて、それを身につけるためにどういう方法が今、使われているかを、右、左に並べています。まだ途中ではありますが、事務所管内ではこういった傾向があるかと見ています。

ところが、こういったタブレット学習をしていくときに、筑紫野市の教育委員会の部長様の御発表にもありましたし、二日市小学校の情報モラル教育という今後の課題にも挙げてありましたが、この写真は御記憶がおありですか。この写真は著作権の問題で資料には貼っていませんけども、今から6年前、首相官邸の屋上にドローンが飛んできたという話です。しかも微量の放射性物質がついていたので非常にびっくりさせられたのですけれども、爆弾をつけていれば爆破されています。今までいろんなICT技術のお話をしたのですけれども、先進技術を使う人の心、人格をしっかりと身につけないと、大きな出来事につながってしまいます。

子どもたちの例でいきますと、パソコンや携帯電話などで誹謗中傷や嫌なことをされる件数は、グラフを見てお分かりのように、5年間で2倍に増えています。パソコンや携帯電話で友達から悪口を言われたり、吐かれたりするということです。2倍に増えています。いじめは、小学校は1.8%で少ないですけど、中学校が10.7%にネットいじめが関係しています。ネットだけではありませんけれども。高校で十七、八%に上がっていきますけども、そういったネットでのいじめというのがあることをお示ししています。

一方で、いろんな被害に遭う子どもがいます。左にお示ししているのが、自撮り画像——自分で裸の写真を撮らされて、それを送らされたケースです。自撮り画像に伴う被害が多くなっています。オレンジ色の棒が中学校を表していますが、特に中学生の被害件数が多くなっています。右側がSNSに起因する被害児童生徒です。これはSNSで知り合った人に「会おう」と言われて、会ったら連れていかれたりした例で、全国的に非常に大きなニュースになったりすることはありますけれども、報道に載ってない事件がもっとたくさんあります。報道に出ているのはごく一部です。

また、友達との間でどんなことが起こっているのかということで、今、うちの事務所に一番御相談が多いのは、上に書いているLINEなどのグループでの仲間外しです。最初4人でグループを組んでいたのだけど、あるときから自分以外の3人のグループが出来上がっているみたいだという相談が非常に多いです。直接、LINE上で悪口を言われることはあまりありません。その人がいないグループをつくっておいて、その子の悪口を言い合っているというケースが多いです。

左下は、出会い系とかゲームで知らない人と知り合うケースです。さっきのSNSの被害とかはそうです。パパ活、ママ活というのは、逆に子どもたちのほうが大人に対して「デートしてあげるからお小遣いを頂戴」というケースで、数年前から福岡県警がサイバーパトロールをしていますけれども、年間に数百件レベルで子どもたちが補導されています。普通のお子さんです。

右上は違法行為ということで、中学生が学校の教員用のデータに入り込んで自分の成績を改ざんするということがありましたし、これも中学生ですけど、コンピューターウイルスを作成して販売したりしています。ランサムウェアという企業のデータに入り込んでデータを使えなくするという身代金用のウイルスがありますけど、そのソフトをつくって使用しようとしたということもありまして、「被害に遭うから大変だよ」だけではなく、子どもたちが使う側として加害者になることも意識して指導していかなければいけない。被害者にもなり得るし、加害者にもなり得る、両面から指導していかなければいけません。

情報モラルと一言で言っても、大きく四つのカテゴリーに分かれていまして、Aの著作権とか肖像権とか責任ある行動の問題、左下にある法律、ルールの問題、右上は安全への知恵というこ

とで、もしトラブルが起きたらどうするのかという問題、Dは情報セキュリティに関する、パスワードの管理などについての学習です。

筑紫野市教育委員会様の御発表の中では、分かりやすいルールづくりという言葉がありました。とてもいいと思います。子どもたちがルールをしっかり守っていくということもそうだし、これからの時代はもう一步踏み込まなくてははいけません。グラフで示しているのは、子どもたちがルールづくりに関わったところがあまり多くないという実態です。これが欧米と大きく違います。日本らしいといえば日本らしいのですけど。子どもたちが自分の生活をよくするためにお互いのルールをつくっていかなくてははいけません。ブラック校則という話題がありましたけど、これは校則の問題もそうです。そういった方向に世界は動いています。自分たちで自分たちが生活しやすいように、自分たちが守るべきルールを決めていくという発想です。

このことはOECDではエージェンシーという言葉でまとめていますけど、そういった方向に世界中が動いている中で、守らせるルール作りから、自分たちでつくっていくルールづくりへとというふうにシフトしていかれると聞いていますので、素晴らしいと思います。

また、横の連携と書いていますのは学校間の連携です。学校だと30人、40人の組織ですが、市内全体だと数百人の組織になるので、そういった方々と共有しながら「こうやって使ったらうまくいったよ」とか、あるいは「こうやるとうまくいかないよ」という失敗事例も含めて共有なさっていくといいかと思います。

共有するのは、学校間とか教育委員会と学校とだけではなくて、重要なのは下に書いている保護者との連携です。フィルタリングによる機能制限は保護者の努力義務と書いていますけれども、これは福岡県の青少年健全育成条例第14条の2の2のところに書かれています。お子さんにスマートフォンやインターネットの世界に触れさせるのだったらフィルタリングをかけてくださいと。これは努力義務になっていて、携帯電話会社とかの業者に対しては義務です。「かけましょうね」とお店で契約するときに言わなければいけません。だけど、保護者が「主に私が使うから」と言って遠慮されると、それ以上業者は言えないのです。先ほど言った、SNSで誘拐されそうになった、されたという子どもたちの9割以上は、フィルタリングがかけられていません。

ぜひ、保護者等と連携していく場合にはルール作り、個人情報取扱い、健康面の配慮等の連携をされていくといいかと思います。これは資料にございません。情報モラル教育は、これからデジタル・シティズンシップというように言葉が少し変わっていくかもしれないということでお示しをしています。

最後になりますけど、ずっとSNSの怖いところばかり、情報モラルの影の部分だけを言いましたが、少し温かいお話です。アメリカのインディアナポリスに脳性麻痺で自閉症のあるマシューさんという方がいらっしゃいまして、彼は大勢の人がいる場所で大声を出してしまったり、歩

行が困難だったりするので外を出歩けなくて、唯一の楽しみは車を見ることでした。車のパレードをテレビやDVDでよく御覧になっていたようで、もちろん、本物のパレードが見たいのですが、自閉的傾向があつて、たくさん人がいる場所に行くと「わー」とか「きゃー」とかいう奇声を発してしまうので、なかなか親御さんとしては連れていけない。もちろん、下半身もあまり自由ではないということでした。

あと数日で誕生日になるけどなと思つたお母さんは、初めてF a c e b o o kを使ってこんな投稿を試みました。「今週、息子のマシューは21歳になります。マシューはパレードを見るのが大好き。そこで、息子のためにパレードを催したいと考えています。この日、我が家にお立ち寄りいただきお祝いのクラクションを鳴らしていただけませんか。マシューはトラックでもバイクでも車でも消防車でもパトカーでも乗り物なら何でも大好きです。8月19日土曜日、午後2時から午後4時の間、家の前でマシューと一緒にお待ちしています。よろしくお願いします」と外に向けて発信したのです。お母さんが一念発起して、初めてF a c e b o o kで発信をされました。

数日前のことだから、二、三台来てくれればいいな、通るときにクラクションを鳴らしてくれればそれでいいなと思つていました。ところが、投稿には「待っていてね、必ず行くから」と返事があつたのです。「マシューの誕生日と一緒に祝おう」とか「準備オーケーですよ」とか。で、当日。何と集まった車は350台。1時間半以上、マーチングバンドが出てくるような騒ぎになつて、マシュー君は大喜びです。

これがI C Tを使ったよさです。知らない人ともつながれる、プラスの面です。そういったことにも使えるいいところがあります。お母さんは、「息子のためにこんなにたくさんのみんなが来くれるなんて夢のようです。わざわざ数百キロ遠くから来ていただいた方もいて、感謝しています」とお話をしています。遠くの人とも知らない人とも温かな心が通わせられる、これがS N S、ネット社会のよいところ、光の部分です。

I C Tなどの技術が進化していく分、それ以上に作る側、使う側の人間の心の進化、もっとよい人間になっていくということを前提にしないと恐ろしい武器を持つてしまうことになりかねません。そういったことにならないように、世のため人のために使えるI C Tになるように、作る側、使う側が考えていかなければならないという言葉を残しまして、お話を終わりたいと思います。御静聴ありがとうございました。（拍手）

○教育政策課長：高野先生、ありがとうございました。

それでは、この機会に教育委員の皆様より、高野先生への御質問や御感想などございましたらお願いいたします。

○潮見教育委員：今日はどうもありがとうございました。先生たちから、できないことができる

ようになった子どもたちの今までにない学習の姿を見せていただきまして、とても新鮮でした。ありがとうございました。去年からコロナというすごく暗い出来事がありまして、子どもたちの心もすごく落ち込んでいたと思われるときに、オンライン、ネット、タブレットというのが身近になって、きっと新鮮な気持ちで新たな社会がみられて、明るい気持ちになったのではないかと思います。

一つ、学校現場への質問ですが、扱いに慣れない子どもたちと慣れている子どもたちへの対応が先生たちの新たな御負担になっているのではないかと心配しておりますが、その辺はどうでしょう。私が思うに、子どもたちが慣れる間だけでも、教室にICTにとても詳しい専門のサポーターティーチャーみたいな方に入っていたらいいのではないかと思いますけど、御感想としていかがでしょうか。

○教育政策課長：高野先生、よろしいですか。どうでしょう。

○講師：国の予算にはICT支援員という制度もありますけれども、子どもたちの中のすごく上手な子が中心になってグループの中で教え合うことも可能ですので、必ずそういった方が必要ということではないと思います。学校で使っているアプリケーションの範囲だとそこまでの技術は求められないと思います。

○潮見教育委員：分かりました。ありがとうございました。

○教育政策課長：高野先生、ありがとうございました。

○田代教育委員：教育委員をしております田代と申します。今日は3人の先生方のお話を本当に興味深く伺いました。特に高野先生のお話は、断片的にいろいろと知っていた知識が一気につながったような感じで、本当に目からうろこが落ちるような、素晴らしい、興味深い、しかし恐ろしいとも感じられるような内容でした。本当にありがとうございました。

本来、技術というのはより良い生活のためにいろいろ開発されていくのですが、それにはどうしても負の部分も伴うといいますか、日陰の部分がありまして、技術が進歩すればするほど凶悪な犯罪につながっていくような側面がどうしてもあります。できるだけそういうことのないように、こういった技術が進んでいったらいいと願っております。

学校のほうからも報告いただきましたけれども、本当に緒についたばかりです。1年後とか2年後には、今は想像もしないような使われ方、利用のされ方がきっとされるのだろうと感じながら伺っておりました。私の感想です。どうもありがとうございました。

○牛川教育委員：教育委員の牛川と申します。今日は発表と講話をありがとうございました。

学校の中での使用状況は非常に興味深く、子どもたちが非常に楽しんで使っているのだろうと想像できまして、これからもっともっと学習に生かされるといいと思います。私には高校生の子どもがおりますので、ほぼ保護者の視点で高野先生のお話を聞かせていただきました。我々親世

代は、ある程度道徳心であったり、モラルを形成してからデジタルツールを手にしておりますが、あやふやな道徳心の子どもたちが、そういった世の中と広くつながれるツールを手にしたときに、どういった感情で使いこなそうとするのか。子どもならではの柔軟な発想があだとなって犯罪や反社会的なことに巻き込まれたり、自分が手を染めていくのではないかということに、まだまだ私たちの頭は固くてついていけないところが多々あります。そういった点は親も含めて、まだまだこれから学習していくことが大事で、先生方を含む大人がしっかり、その怖さを知ることが大事だと改めて思いました。どうもありがとうございました。

○久原教育委員：失礼します。教育委員をさせていただきます、やっと1年が終わろうとしています久原と申します。よろしくお願いいたします。

今日は大変中身のあるお話で、特にこれからの部分、例えばアダプティブ・ラーニングなんかの方向性を示していただきながら、また、学校の現状もお聞かせいただきまして、本当にありがたいと思っています。

実は、皆さん、それぞれプレゼンテーションでお話をいただきましたが、私、20年ぐらい前に初めてこういう内容のプレゼンテーションと講話の経験がありまして、そのとき「すごいな」と思いました。分かりやすく、そして、視覚と聴覚と体全体で受け止めながら研修が進むということで、すごいなと思っていたのですけれども、教育の現場でも、その頃、20年ぐらい前から、例えば先輩がパソコンを使った数学の授業などをされているのを見たりしまして、こういうのがこれから進んでいくのだらうと、中身的にも非常に期待をしていました。

20年たって、やっとそれぞれにみんなが持てるようになってきているわけです。その中で、先生方もいろいろ工夫されて、今日、発表にあったような中身でされていると思うのですが、そういうのを教材化すると併せて、蓄積としたものを先生方にどう伝えていくかということもあると思います。高野先生が言われた共有化が進むことで、もっとICT教育が進む気がします。

それと同時に、細かいことですが、例えば二日市小学校はマット運動の授業に動画を使っていると。昔、ビデオテープで撮って比べるところまではあったのです。それが子どもたち一人一人、個に応じて直に出てくる。ではその動画と、どうしたらうまくできるかという間をつながなくてはいかません。例えばマット運動の前転のところと言えば揺り籠の動画です。揺り籠の中で起き上がる瞬間が前転のポイントになる。と同時に、起き上がるときに腹筋の力が必要で、そのトレーニングの仕方もある。教材として動画を見るだけではなくて、そういうつなぎの部分における先生方の力が全ての教科で必要となる気もするので、そういうのを共有してつないでいくことにしていただけたらもっとタブレットが有効活用されるのではないかという期待もして、今日はお話を聞きました。ぜひ、次の機会にこういうふうに高まったというところを見せていただけたらありがたいと思います。今日はありがとうございました。

○教育政策課長：教育委員の皆様、ありがとうございました。

まだまだたくさん御質問等もあるかとは思いますが、お時間もございますので、ここで終了させていただきたいと思えます。

高野先生、本日は大変貴重なお話を誠にありがとうございました。皆様、感謝の意を込めて、いま一度拍手をお願いします。（拍手）ありがとうございました。

それでは、閉会の言葉を筑紫野市教育委員会の上野二三夫教育長が申し上げます。

○教育長：失礼します。それでは、私のほうからまとめと、お礼を含めた閉会の言葉を述べさせていただきます。

本日は、令和3年度第1回筑紫野市総合教育会議を藤田市長の下、開催させていただきましたけれども、教育委員の皆様方、そして小中学校の校長先生、教頭先生、そしてまた、議会のほうから、このホールにいっぱいの方に集まっていただいて、無事にこの時間を迎えられましたことを大変ありがたく思います。本当にありがとうございました。

少しまとめをしながらお礼の御挨拶にさせていただきたいと思えます。今日は、小学校、中学校、二日市小学校そして天拝中学校のお二人の先生方からそれぞれ活用の方法、在り方等について報告をいただきました。本当にありがとうございました。

まだ緒についたばかりですけれども、これから例えば国語の時間とかに、授業が終わった後、黒板の中身を一回記録に取って、それを次の時間に1回見せて、こんな勉強をしたよねという使い方もひょっとしたらこれからできるかもしれません。そういうふうな使い方も少しこれから工夫していただくとよろしいかと思えます。活用されている中身がよく分かりましたし、今日のほかの学校の校長先生方には資料お渡ししていますし、発表も聞いてありますので、ぜひ生かしていただきたいと思えます。本当にありがとうございました。

また、高野主幹からは、本当に短い時間でしたけれども、大所高所からお話しいただきまして、ありがとうございました。また、今日は、二日市小学校、天拝中学校の発表の中身をうまくお話の中に盛り込んでいただいて、特にICTの特徴を生かした活用ということで「残す」「つながる」、そして「個に応じる活用」ということでまとめていただき、私も大変参考になりました。また、最後に非常に感動的なお話をいただきまして、こんな使い方があるのだと改めて認識を深めたところです。本当にありがとうございました。

筑紫野市ではこれまで、知・徳・体育の三つのバランスの取れた子どもたちの育成を目指してまいりましたけれども、本日の高野主幹のお話を拝聴させていただきまして、改めてICT教育の推進について、これからどう効果的に活用していくのかと併せて、徳育、つまり心の教育の重要性、ICT機器を使用する子どもたちのモラル教育や心の教育がいかに重要かを再認識させていただいたところです。本当にありがとうございます。私たちはこれからも、市の行政と教育委

員会そして学校が連携しながら、筑紫野市の未来をつくる光輝く子どもたちの育成を推進してまいりたいと考えておりますので、どうぞひとつよろしく願いいたします。

結びになりましたが、今後の本日御出席いただきました皆様のさらなる御健康、御活躍を祈念いたしまして、閉会の言葉といたします。本日は最後までありがとうございました。（拍手）

○教育政策課長：ありがとうございました。

皆様、御起立ください。気をつけ。礼。直れ。御着席ください。

以上をもちまして、本日の全行程を終了いたします。皆様、ありがとうございました。気をつけてお帰りください。